

有害物質

《アスベスト》

【東京】

2019年度は本新館とも石綿障害予防規則に該当する作業はありませんでした。本館は躯体の耐火被覆材としてアスベスト(石綿)を使用しているため、飛散しないようにすべて封じ込めをしています。本館は年2回(8月、2月)、測定専門業者がアスベストを封じ込めている代表的な館内12カ所(機械室の近傍)の空気を採取して、浮遊石綿粉じん濃度の測定をおこなっています。測定は空気を捕集し、位相差顕微鏡で繊維数を計数する方法です。すべての測定点で採取した試料は、アスベストの基準値(10f/L)以下で0.5f未満である状態を継続しています。アスベストが飛散している状況はなく、安定しています。

【大阪】

2012年12月まで大阪本社が入居していた旧朝日新聞ビルにアスベストが使用されていましたが、中之島フェスティバルタワー・ウエスト建設に伴う解体工事により、14年度末までに全て撤去が完了しています。

【西部】

西部本社は2009年4月以降、アスベストに関する報告事項はありません。以下はこれまでの朝日ビルディングのアスベスト報告です(リバーウォーク北九州の建物はアスベストを使用していません)。

- ・09年3月＝3階宿直室横の機械室のアスベスト除去工事を実施。判明していた予定の工事。
- ・08年2月＝テナント原状回復工事の際、2階テナントの天井裏一部壁にアスベストが使用されていることが判明、08年3月末から4月初めにかけて除去。
- ・07年3月＝06年の14階旧ホテル跡地の工事の際、2階から14階の腰壁部分にアスベスト使用が判明。腰壁は鉄板で覆われ、すでに「囲い込み」の状態だったが、改めて密閉状態であることを確認のうえ、腰壁接合部の隙間を補修する工事を07年3月までに実施。

【名古屋】

囲い込み済みだった新聞棟3階と地下2階のアスベストは、2014年8月の新聞棟解体工事の際に全て回収、処理されましたので、名古屋本社のアスベストはなくなりました。また総局、ASA店舗にはアスベストが使用されていないことを確認しています。

《PCB》

【東京】

PCB廃棄物特別措置法(2001年制定)によって、東京本社管内で保管しているPCBを含有する電気工作物を「PCB廃棄物(コンデンサー・トランス・リアクトル、蛍光灯安定器)」として、事

業所ごとに保管状況を東京都へ毎年6月30日までに報告しています。東京本社は国のPCB廃棄物処理事業基本計画に従い、保管廃棄物の処理を順次進めてきました。

19年度は、本館に保管していた蛍光灯安定器・照明用コンデンサー等(5,991kg)を8月に搬出し、中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)北海道PCB処理事業所での処理を経て、廃棄終了届出書の提出を終えています。旧世田谷生産技術実験所の解体工事中に、受電設備から高濃度PCB含有機器(サプレッサー)が3台発見されました。2020年6月に築地の本社に移送し保管しています。

【大阪】

旧朝日新聞ビルおよび旧大阪朝日ビルで保管していたPCB廃棄物は、大阪本社の移転に合わせ、2012年12月に中之島フェスティバルタワー地下2階に移設して保管していましたが、それら全ては16年5月までにJESCO処理施設へ搬入され、処分は完了しています。

朝日プリンテック社の旧豊中工場で保管・使用していた蛍光灯安定器160台(高濃度)のPCB廃棄物は、工場閉鎖に伴い朝日プリンテック堺工場に移設して保管していましたが、18年5月末にJESCO処理施設へ搬入され、こちらも処分は完了しています。

17年2月に航空部の大阪国際空港事務所(伊丹格納庫)を調査したところ、古い蛍光灯の安定器2台にPCB含有の可能性が高いことが判明しました。現在は、取り外してペール缶に収め、格納庫内で保管しています。JESCOへの搬入荷姿登録を19年2月に済ませ、JESCO北九州PCB処理事業所での処理順番を待っています。

また、京都朝日ビルの外壁に設置されていた看板照射用ネオントランス(計10台)が、高濃度PCB汚染物に指定されていることがわかり、19年9月に取り外してJESCOへの登録を済ませました。同ビル地下1階に保管中で、こちらもJESCO北九州PCB処理事業所での処理順番を待っています。

【西部】

西部本社で保管していたPCBの処理は、2010年12月末ですべて終了しています。

【名古屋】

2010年12月10日に高濃度PCB含有機器(コンデンサー)5台の最終処分が終了。名古屋本社のPCB含有機器はなくなりました。

【北海道】

北海道支社で保管していたPCBは、2016年10月の処理を最後になりました。